

プログラムを実行するとワーク座標原点の値が変わってしまう

G10もしくはマクロのシステム変数でワーク座標を書き換えていませんか？

1, G10でのワーク座標の書き換え

下記の通り

G10L2P…でG54～G59のワーク座標原点を書き換えます。

G10L20P…でG54.1P1～G54.1P48のワーク座標原点を書き換えます。

これらのGコードがプログラム中に入っていないかを確認します。

3.6.1 ワーク座標原点データの入力

指令形式 G10 L2 Pn X_ Y_ Z_ A_ B_ C_;

n=0 : 外部
n=1 : G54
n=2 : G55
n=3 : G56
n=4 : G57
n=5 : G58
n=6 : G59

3.6.6 追加ワーク座標原点データの入力

指令形式 G10 L20 Pn X_ Y_ Z_ A_ B_ C_;

Pn : 追加ワーク座標系の指定コード
n : 1～48
X、Y、Z : ワーク原点オフセット量の設定値

2, マクロのシステム変数を用いてのワーク座標の書き換え

下記表の通り、マクロのシステム変数にワーク座標原点が割り当てられていて書き換え可能です。プログラム中に該当するマクロ変数があるかどうか確認します。

6.2.6.2 ワーク座標原点

ワーク座標原点の読み取り、書きこみを行います。

ワーク座標(外部)	#5201～#5206	R/W
(G54)	#5221～#5226	R/W
(G55)	#5241～#5246	R/W
•	•	•
•	•	•
(G59)	#5321～#5326	R/W
(G54.1P1)	#7001～#7006	R/W
(G54.1P2)	#7021～#7026	R/W
•	•	•
•	•	•
(G54.1P48)	#7941～#7946	R/W